

老健にて 美 唄 吉村 誠治

判定が支援となりし鬱病のキヨさん明るく自宅に帰る  
漸うに自宅復帰の静江さん息子夫婦に笑ひありたり  
転倒が即骨折となる事故が今朝も起きたり憂いは盡きず  
案じたるノロウイルスの発症なく二月の老健穩かに過ぐ  
今朝晴る陽は燦燦と射し込みてロビーは家族で賑いてあり

億光年 札 幌 山口 康德

高速路工事進まばそこに並び漸次顕る古代遺跡は  
億光年聞くだに遠き発生時歴史を馳けぬけいま地球に届く  
刺股を手にし暴漢防ぐとはむかしのグッズいまで役立つ  
スマトラに不明となれる母さがしひとり旅する健気なる少年は  
アフリカの東に位置すソコトラ島そこに生ふ珍木ボルトリーは

# 北海道医報人會詠草

沈丁の花 札 幌 魚住あらた

春一番桜はるましも花をよぶ聖のるましづくつたりき  
弥生こそ桜の花をつくづくと生なまの花春深しの花  
紅梅はこゝにもありて去年の花つくづくたりきその香をし想ふ  
うつゝなき春のこゝろはこゝあしも白木蓮の花沈丁の花  
老死なば病みたるわれの杖をし想ふ白木蓮の花沈丁の花

追悼一束 札 幌 小国 孝徳

向き合ひて診療報酬明細書を審査したりし幾年かありき(末吉利三名誉教授)  
百歳に日々近づくを寿きて居りしに遂に多臓器不全  
司法解剖数百例を手がけたる君は妻ぎみに抱かれて逝けり(大原信友君)  
四年修了の君が先立つとは思はざりき一年浪人の年長者吾は(築詰勝彦君)  
押しなべて秀でしは先に逝くものか遺影を前に少しづつ飲む

豪 雪 札 幌 古屋 統

三十年住む家初めて完璧に厨の窓が雪に塞がれ  
裏口の壁に備えし計器類ガスも電気も読むべはなし  
ペランダも居間も視界が狭められ松の梢が僅かに覗く  
年毎に降り積む雪の増すものか除雪の力は年毎落ちる  
果樹は裂けビニールハウス潰されし農家の雪害追うテレビあり

昭 和 帯 広 中野 知弘

二十ほどわれより若き開業医一人の急死 精励のはて  
この日ごろ処方書きつつ思ふらく リピータ  
ー医師とは誰にもあらず  
黒駒の勝蔵のごとき國ならば出づるや如何  
次郎長と一家  
麗しき中丸三千繪のソプラノに続く浪曲佐渡  
情話なれ  
われら立ち立たざるべけむ刻こえて昭和は遠く去りゆく一日

